

第44回報道機関懇談会 2016年2月18日

東日本大震災に係る土木学会の活動と  
東日本大震災5周年シンポジウム

公益社団法人土木学会  
東日本大震災復興支援特別委員会



# 大震災時に役立った土木学会の活動:土木構造物を例に



被害構造物の調査研究

急速に進んだ既設構造物の耐震診断と補強

構造物のせん断耐力に関する研究

1980年代

耐震設計指針の強化



2011.3

土木学会規格規準類: 構造物の新規建設・補強設計・維持管理

連携

各インフラ事業者による耐震設計指針類の整備と強化

以後の設計は崩壊を免れた

地震荷重による構造物の崩壊防止に  
対して一定の効果<sup>2</sup>

- ・土木学会：1914年11月設立
- ・個人会員39,000人＋法人会員500

特に震災研究活動  
の母体を列挙

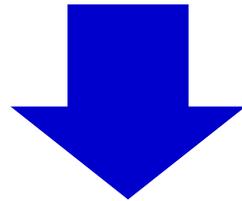


① 各領域分野に関する研究委員会  
・自立的な調査研究：理事会で討議・承認された中期計画に基づく

二種類の  
委員会組織

## 東日本大震災に係る土木学会の活動：学会の最優先課題

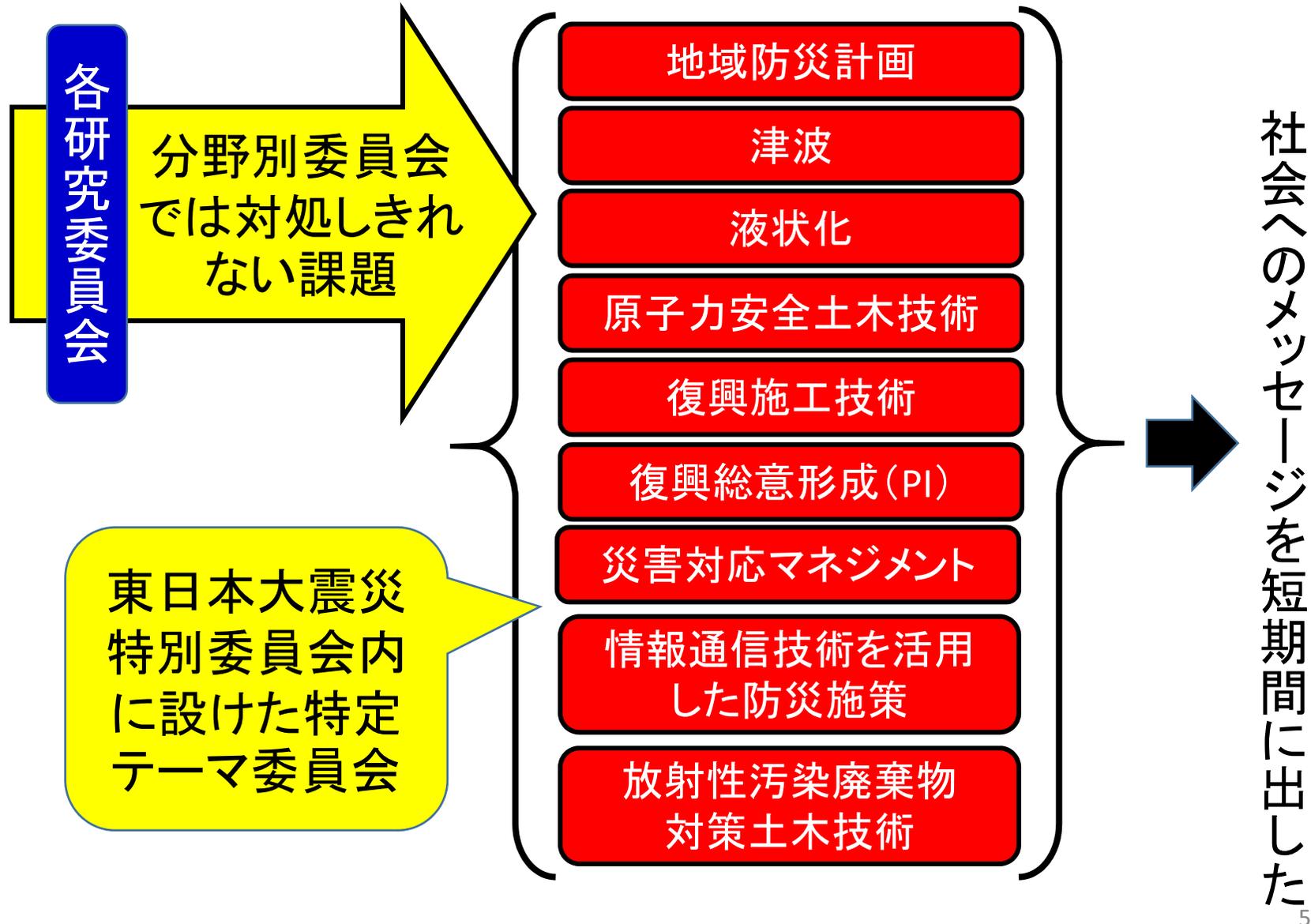
- ・直ちに東日本大震災特別委員会(委員長:阪田憲次会長)発足
- ①被災状況等に関する総合的学術調査の実施・成果の取りまとめ  
＋従来の地震および津波対策等の評価
- ②緊急活動や地域復興に関する提言
- ③今後の大規模地震および津波対策のあり方の検討
- ④他学協会等との連絡調整



### 各代の会長を委員長として継続的に活動

- ・2011～12 東日本大震災特別委員会(山本卓朗)
- ・2012～13 東日本大震災フォローアップ委員会(小野武彦)
- ・2013～14 東日本大震災フォローアップ活動(橋本鋼太郎)
- ・2014～16 東日本大震災復興支援特別委員会(磯部雅彦・廣瀬典昭)

# 分野間連携による東日本大震災への取組み：明確な出口戦略



# JSCE 土木学会 東日本大震災アーカイブサイト

<http://www.jsce.or.jp/library/eq20110311/index.shtml>

## Contents

- ・ トップページ
- 東日本大震災特別委員会 成果一覧
- 公開資料
  - ❖ 土木学会関連
    - ・ 書籍・報告書
    - ・ 記事・論文
  - ❖ 投稿資料を含むアーカイブ
    - ・ 土木学会以外書籍・報告書 (工事中)
    - ・ 土木学会以外記事・論文(工事中)
    - ・ 写真(GIS上で表示)
    - ・ ファクトデータ
    - ・ 映像
    - ・ GIS表示
  - ・ 情報登録入り口

◀◀ 土木学会発の東日本大震災に関する情報を一括公

- ・ 新着情報
  - 【土木学会誌・論文集】
    - ・ 土木学会論文集2014年に368件を追加掲載(2015/1/19)
    - ・ JSCE Disaster Reports: Fact Sheetsへリンク(2013/9/25)
  - 【映像】
    - ・ 震災映像配信サイトに東日本大震災関連映像22件を追加公開(2015/1/19)
  - 【GIS】
    - ・ GISサイトの運用を開始、写真・文献情報を中心に約8,000件を掲載(2014/4/1)
  - 【ファクトデータ】
    - ・ ファクトデータの掲載を開始(2013/9/25)

- ・ 公開対象リスト(2015/1/19現在)
  - 1)書籍・報告書(68件) 2)記事・論文(1,522件) 3)写真(GIS表示)(5,000点) 4)映像(86件) 5)ファクトデータ(2件)
- ・ 情報の登録
 

情報の登録は会員の方のみ可能です。  
各種情報登録入り口からご登録ください。

土木学会東日本大震災アーカイブサイトの開設

このたび(2011.3.11)の大震災で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

土木学会情報資料部門では東日本大震災アーカイブ特別委員会を設置し、土木学会委員会・会員の方々の、東日本大震災に関する活動成果を全どのほか活動の過程で収集した各種資料、学会誌の特集記事や各部門の関連論文、あるいは会員が記録した写真・映像資料などを収集・分類・登録サイトに情報公開することで、容易なアクセスと採りやすさを提供いたします。ぜひご活用ください。また、会員の皆様が保有する貴重な情報資料を、web

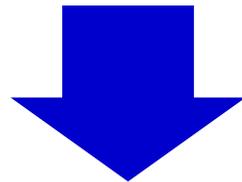
## 土木学会主催の東日本大震災周年シンポジウム

1周年:2012年3月5, 6日「東日本大震災 あれから1年そしてこれから～巨大災害と社会の安全～」

2周年:2013年3月6日「東日本大震災から2年～被災地の本格復興と日本再生への処方箋」

3周年:2014年3月3日「東日本大震災から3年～東北復興、南海トラフ、そして福島～」

4周年:2015年4月7日「東日本大震災再考～困難課題の克服と復興の加速に向けて～」



5周年:2016年3月1, 2日

# 来る3月1・2日 東日本大震災5周年シンポジウム開催(港区・発明会館)

分野間や学会間の連携なしには  
解決し得ない6つの最重要テーマ  
によるセッション編成

- ・減災アセスメント:津波総合減災を目指して
- ・「危機耐性」を考慮した耐震設計体系/試案と実装に向けた課題
- ・福島第一原発事故由来の放射性汚染廃棄物対策の着実な推進に向けて  
～福島の早期の復興を目指して～
- ・災害対応のソフト～人・組織・地域～
- ・東北の津波被災地復興の経験から何を学ぶか?
- ・福島第一原発事故被災地の復興をどう進めるか?

# この5年間を 復興の加速と 次への備えに 活かすために

土木学会主催 東日本大震災5周年シンポジウム

場所 **発明会館 ホール** (東京都港区虎ノ門2-9-14) 定員 **300名**  
 主催 公益社団法人 土木学会 (東日本大震災復興支援特別委員会)  
 後援 (予定) 国土交通省、日本建築学会、日本都市計画学会、日本原子力学会、地盤工学会

日時 2016 (平成28) 年 <b>3月1日 (火)</b> 10:00~17:00	日時 2016 (平成28) 年 <b>3月2日 (水)</b> 10:00~17:00
10:00~10:15 開会あいさつ 公益社団法人土木学会 会長 廣瀬 典昭	10:00~11:45 セッション4:災害対応のソフト～人・組織・地域～ 座長:須藤 功明 (鹿島建設)、松本 直也 (東日本建設業保証)
10:15~12:00 セッション1:減災アセスメント:津波総合減災を目指して 座長:筒安 肇夫 (東京海洋大学)	13:00~14:45 セッション5:東北の津波被災地復興の経験から何を学ぶか? 座長:岸井 隆幸 (日本大学)
13:15~15:00 セッション2:「危機耐性」を考慮した耐震設計体系/試案と実装に向けた課題 座長:長尾 駿 (神戸大学)	15:00~16:45 セッション6:福島第一原発事故被災地の復興をどう進めるか? 座長:家田 仁 (東京大学/政研研究大学院大学)
15:15~17:00 セッション3:福島第一原発事故由来の放射性汚染廃棄物対策の着実な推進に向けて～福島の早期の復興を目指して～ 座長:大西 有三 (関西大学)	16:45~17:00 クロージングセッション:この5年間を、復興の加速と次への備えに活かすために 座長:佐藤 慎司 (東京大学)

※同日とも、出演者は事情により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。  
 (プログラムの詳細はホームページ (http://committee.jstage.or.jp/2011/quake/) でご確認ください)

■参加費【二日両通し料金・資料代含む】  
 【事前申込】会員 (後援学会員含む) 5,000円、非会員 6,000円、学生 2,000円 【当日申込】 8,000円  
 ※当日申込の場合、定員超過で入場できない可能性があります。あらかじめご了承ください。

■参加申込 土木学会ホームページの本部主催行事申込 (http://www.jstage.or.jp/event/active/information.asp) からお申込みください。

お問い合わせ先: 公益社団法人 土木学会 事務局 二基  
 TEL: 03-3356-3559 FAX: 03-5379-2769  
 E-mail: snhel@jstage.or.jp

本シンポジウムは土木学会主催のPRプログラム (著作権©PR登録認定プログラム) です。 印刷物ページ

## セッション1

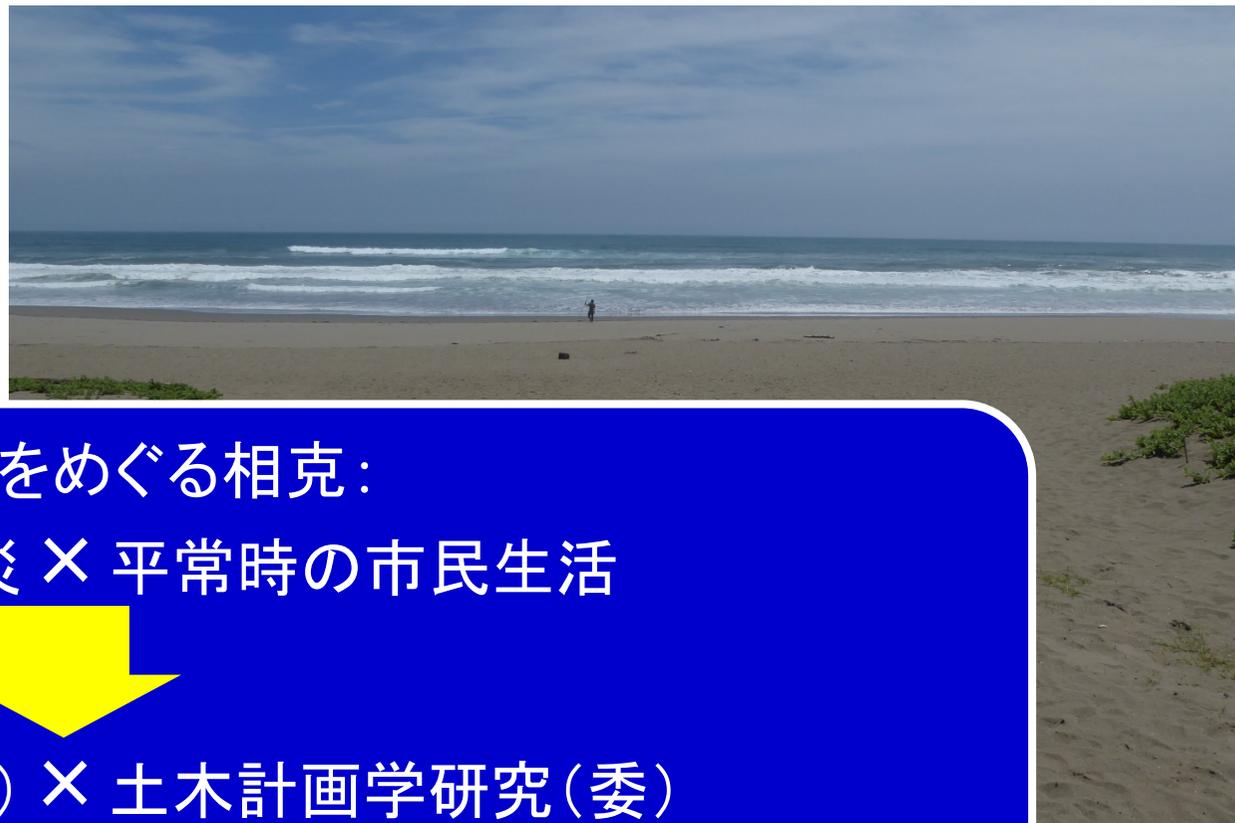
### 減災アセスメント：津波総合減災を目指して

- ・安全性の確保と景観等への影響についての課題
- ・今後の巨大地震津波も見据えた総合減災アセスメントについて  
議論

座長：岡安章夫（東京海洋大学）

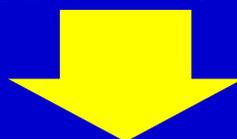
- ・今村文彦（東北大学）「津波特定テーマ委員会の報告（防災・減災および津波レベルの考え方について等）」
- ・井上智夫（国土交通省）「防潮堤整備の事例紹介」
- ・中井 祐（東京大学）「復興において防災施設の外部性がもたらす影響（まちづくりの観点からみた防災インフラ整備について）」
- ・佐藤慎司（東京大学）「減災アセスメント小委員会の設立趣旨」
- ・多々納裕一（京都大学）「減災アセスメントの方向性」

分野間連携による  
東日本大震災への  
取組みの例



例) 防潮堤高さをめぐる相克:

津波防災 × 平常時の市民生活



海岸工学(委) × 土木計画学研究(委)

= 減災マネジメント小委員会

相克を超えた, 地域基盤再構築のための研究



## セッション2

### 「危機耐性」を考慮した耐震設計体系/試案と実装に向けた課題

- ・設計基準を超える極大事象を考慮する視点を持つ設計概念である「危機耐性」に基づく耐震設計体系試案」の考え方や実装に基づく要件について議論

座長: 長尾 毅(神戸大, 耐震基準小委員会委員長)

- ・本田利器(東京大学)「危機耐性のための耐震設計体系の考え方」
- ・秋山良充(早稲田大学)「Risk-based・Resilience-based designへの移行の模索」
- ・星隈順一(土木研究所)「設計基準における安全側の配慮の見える化とレジリエンス設計」
- ・矢部正明(長大)「建設コンサルタントの立場から考える危機耐性」
- ・武田篤史(大林組)「建設会社の立場から考える危機耐性」

## セッション3

福島第一原発事故由来の放射性汚染廃棄物対策の着実な推進に  
向けて～福島の早期の復興を目指して～

- ・これまでの汚染廃棄物対策への取組み状況を振り返る
- ・汚染廃棄物対策の課題解決のための取組みについて、各専門家から最近の取組み状況や今後への提言等の話題提供
- ・実効性ある取組みを加速化させて行くため、産官学の関係機関の連携、地元や一般の理解(社会的受容性)の観点からのフロアを交えたパネル討論

## セッション3: 福島第一原発事故由来の放射性汚染廃棄物対策の 着実な推進に向けて～福島の早期の復興を目指して～

座長: 大西有三(関西大学)

福田俊彦(原子力損害賠償・廃炉等支援機構)「福島第一原子力発電所  
廃炉の取り組み状況と今後の計画推進」

丸山久一(長岡技術科学大学)「汚染水タスクフォース・コンクリート委  
員会汚染水貯蔵用PCタンク検討小委員会等の土木学会の取  
組み状況」

油井三和(日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター)「福島環境修  
復と除去土壌等の減容・再生利用等の技術開発」

桜井勝延(南相馬市長)「早期の住民帰還と復興のための地元での  
取り組み状況、課題、要望と提言」

河西 基(アサノ大成基礎エンジニアリング)「放射性汚染廃棄物対策に  
関わる土木学会の活動状況と今後の取り組み方針」

## セッション4

### 災害対応のソフト～人・組織・地域～

- ・今後の大規模災害に備えての「ソフト面での在り方」に焦点
- ・安全問題研究＋建設マネジメント委員会のコラボレーション
- ・人材育成ならびに組織・地域の継続に関する活動の動向や将来展望の一端を紹介

座長：須藤英明（鹿島建設）＋松本直也（東日本建設業保証）

- ・白木 渡（香川大学）「震災後5年間のBCPの動向とレジリエンス」
- ・磯打千雅子（香川大学）「連携の形としてのDCPと普及展開」
- ・木下賢司（熊谷組）「ケースメソッド手法による災害対応の人材育成」
- ・加納 実（鹿島建設）
- ・坂井康人（阪神高速道路）

## セッション5 東北の津波被災地復興の経験から何を学ぶか？

- ・岸井隆幸(日本大学)コーディネータによる、5年間に及ぶ東北復興の道筋を概観
- ・復興現場における活動を下敷きに、各分野の専門家が、建築、ランドスケープ、社会基盤、文化、コミュニティといった視点から東北復興の問題整理
- ・今後の東北復興の方向性について議論し、来るべき巨大災害に向けた備えとあるべき復興の姿を考える

コーディネータ・基調講演：岸井隆幸(日本大学)

パネリスト：塩崎賢明(立命館大学)

石川幹子(中央大学)

家田 仁(東京大学・政策研究大学院大学)

池邊このみ(千葉大学)

山路永司(東京大学)

## セッション6 福島第一原発事故被災地の復興をどう進めるか？

- PART 1 家田 仁コーディネータによる, 東京電力福島第一原発事故被災地の概況と復興に向けた論点整理
- PART 2 「産業・生業・雇用復興」「まちの復興」「地域社会の復興」の視点に基づき, 「福島被災地の現状をどう見るか?」「復興をどう進めるか?」についてパネルディスカッション
- PART 3 フロアと共に議論

コーディネータ: 家田 仁 (東京大学・政策研究大学院大学)

パネリスト: 開沼 博 (福島大学)

小山良太 (福島大学)

山崎 亮 (東北芸術工科大学)

臼井純子 (オフィス・ウスイ)

北村秀哉 (東京電力)

羽藤英二 (東京大学)

## クロージングセッション

この5年間を，復興の加速と次への備えに活かすために

各セッションのまとめをもとに，復興の加速と次への備えに活かすために，本シンポジウムでの議論を総括する。

座長：佐藤慎司（東京大学）

登壇者：廣瀬典昭土木学会長＋6セッションの座長

東日本大震災に対する取組みの継承：次への備えのための、  
国内外と地域での新たな活動

2015年6月「自然災害に強いしなやかな国土の創出のために一  
行動宣言と行動計画ー」

2015年6月「地域レジリエンス創生委員会」設立：各支部の取組  
みについての情報共有と連携促進＋市民との共働活動強化

2016年1月 国内48の学会が加盟する「防災学術連携体」設立：  
学会の枠，自然・社会・人文科学の領域を越えた減災・防災の  
推進←土木学会が初代主担当学会に就任

海外：アジア土木学協会連合協議会において日本主導の「減災・  
防災に関する技術委員会」設置